

**サッカー部** 2位と5点の差をつけ「得点王」に輝く

本学のサッカー部に所属する酒井大輝さんが、第13回愛知学生サッカーリーグ戦において20得点をあげ、チームメイトである2位の貴井拓也さんの15得点を上回り、堂々の「得点王」に輝きました。

**VOICE** 刺激を受け高めあえるライバルの存在に奮起！  
愛知学生サッカーリーグ戦「得点王」

はじめは意識していませんでしたが、試合を重ねるごとに記録が気にかかるようになり「得点王」を意識し、積極的に攻めました。得点に結びつけてくれるアシストと良きライバルの存在にはとても感謝しています。チームも愛知県の1部リーグで優勝。東海チャレンジリーグ戦を経て「東海リーグ2部」へ。次の目標は1部昇格！もちろん2年連続の得点王も狙っています。



法学部1年 酒井大輝さん 名古屋経済大学高蔵高等学校(愛知県)出身

**剣道部** 剣道部3年連続！全国大会出場

11月16日(日)、大阪府立体育館 BODYMAKERコロシアムで開催された「第62回 全日本学生剣道優勝大会」に出場。この大会で剣道部は、3年連続の全国大会出場を果たしました。



「第62回 全日本学生剣道優勝大会」出場選手

2015年4月  
『女子サッカー部』  
発足！

新入部員募集中！！

この春、名経大に女子サッカー部が誕生します。新監督には三壁雄介氏(元ノジマスタテラ神奈川相模原コーチ)が就任し、本格始動。元Jリーガーの阿部敏之監督(元鹿島アントラーズ)、白井博幸コーチ(元清水エスパルス)もサポートします。名経大女子サッカー部の新しい歴史を一緒に作りましょう！

OPEN CAMPUS 事前予約受付中！

3月29日(日)にオープンキャンパスを開催いたします。  
体験授業・MEIKEI“大探検ツアー(キャンパス見学)”・無料学食体験・総合相談コーナーなどを実施。  
参加者全員に、オリジナルグッズをプレゼントいたします。



3/29  
10:30  
14:30



学校法人市邨学園教育研究充実寄附金のお願いについて

学校法人市邨学園では、少子化の進行などにより今後より一層厳しさを増す私学を取り巻く環境を踏まえ、100年積み上げて参りました教育・研究活動の益々の振興充実をはかるべく、「学校法人市邨学園教育研究充実寄附金」(任意)を募集いたしております。  
趣旨にご賛同いただき、ご寄附をお申し出いただける場合、またご不明の点などありましたら、右記までご連絡いただけますよう、よろしくお願いたします。なお、本法人は、特定公益増進法人の認定に加え、税額

控除対象法人の認定を受けました。これにより、個人の方が本学へご寄附いただけますと、以前より多くの所得税の控除を受けることも可能となります。

寄附金に関する照会・連絡先

学校法人市邨学園 法人本部(寄附金担当)  
TEL 052-853-0047(代表)

MEIKEI

あなたのご意見をお聞かせください

「名経大通信」Vol.50について、ご意見や感想などございましたら、情報センター広報室(右記連絡先)までお聞かせください。

MEIKEI 名経大通信 Vol.50 | 平成27年2月27日発行 名古屋経済大学・短期大学部 〒484-8504 愛知県犬山市内久保61-1 TEL 0568-67-0511(代) http://www.naboya-ku.ac.jp/ | 情報センター 広報室 TEL 0568-67-0624 FAX 0568-69-2700

MEIKEI

名経大通信 Vol.50  
2015.2.27  
名古屋経済大学  
名古屋経済大学短期大学部



# 犬山市長を訪ねて

## これからの「犬山市と名経大」

本学の卒業生である山田拓郎氏(1995年卒)が、平成26年11月30日(日)の市長選を経て第7代犬山市長に就任されました。

これからも犬山市、犬山商工会議所、名古屋経済大学の三者の包括的協定に基づいた「産・学・官の連携事業」の協力関係をさらに深めようと、平成27年1月13日(火)、佐々木学長・佐分副学長が山田市長を訪問しました。



犬山市と名経大の未来を見据え、熱い握手(左から佐分副学長、山田市長、佐々木学長)

### 『犬山市と名経大との関わり』

**佐分(司会):**まずは山田市長から大学時代の思い出をお聞かせ願えますか。

**山田:**経済学部在籍していましたが印象に残っているのは、消費者問題に関する実践的な学びにふれることができたことです。犬山市役所では消費者相談室を設けて詐欺や偽装問題などの相談に対応していますが、当時学んだ講義内容が役に立っています。名経大は私にとって、身近にある大学。教員との距離感が近いためコミュニケーションが取りやすく、現在もOBとして大学とのつながりを生かすことができています。

**佐々木:**山田さんがご自身の肩書きのトップに、「名経大同窓会長」を謳って選挙を戦っておられたことを嬉しく頼もしく感じていました。多くの同窓生や在学生もそうだったと思います。

**佐分:**卒業後、政治に関わるようになったきっかけは？ 市長までの道のりをお聞かせください。

**山田:**卒業後に国政選挙の手伝いをする機会があり「自分も生まれ育った犬山のために役立ちたい」と、政治への関心が深まりました。その後、秘書を経て



市議会議員選挙に挑戦し、26歳という当時最年少で初当選しました。議員活動の中で、「自分の思いをもっとダイレクトに市政に反映させたい」と決心し、市議会議員2期目の33歳の時に市長選へ出馬しましたが落選。そして市議会議員に戻って4期目を迎えた昨年、2度目の市長選に挑み、当選を果たしました。

### 『犬山市を学生が学び、暮らす街に』

**佐分:**犬山市長としてどのような取り組みを考えていらっしゃいますか？

**山田:**まず、犬山市には人口の減少という重要な課題があります。出生率の回復は難しいと思いますが、大学との関係で言えば、学生に犬山に住んでもらえるようにしたい。犬山市で物件をリサーチして環境を整備し、情報を提供すれば人口も増加し、地域の活性化につながると考えています。そのためにも産・学・官の連携にさらに期待したいですね。

**佐々木:**学生がこの地域をキャンパスにして学び、この地に住む。犬山市には多様な産業があるので、卒業後も職を得て暮らすという、いい循環を作れるといいですね。本学は「地域とともに歩む大学」として地域産業の振興を学生・教員・市民とともに考えていますが、大切なのは大学の研究資源・教育資源を地域産業にどう生かしていくか。近年は、若手教員を積極的に採用し、地域振興政策の研究と実践に力を入れているところ。産・学・官が連携して研究所的な機関を立ち上げ、アイデアを生み出していくこともできると思いますので、ぜひ市政の中に組み入れていただきたい。

**山田:**互いの連携を具体的に進めていくことが大事ですね。たとえば学生に住んでもらう目的なら、賃物件がどれだけあるか、シェアハウスの可能性などを犬山市でリサーチし、不動産業界とタイアップして売り込んでいくことも必要です。「犬山市に住むとこんな楽しいことがある」という魅力を学生だけでなく、多くの人に伝えるのが重要なポイントだと思います。自然や文化など、犬山にはアピールするいい材料がいっぱいありますので、連携を取って進めていきたいですね。

**佐々木:**そうですね。昨年は本学に59人の留学生が入学しましたが、留学生たちは犬山の文化に大きな関心を持ちます。この4月も多くの留学生を受け入れる予定ですが、彼らが犬山に住むことで国際化が進みます。留学生たちは日本企業への就職を希望していますので、近隣の優良企業へのインターンシップ体験を通じ、地域企業に就職してもらいたい循環につながると思います。

**山田:**地域経済の発展のためには、柔軟な発想が必要です。大学と連携し、学生の若い感性を取り入れることで面白いアイデアやヒントも生まれてくるはず。また、視野を国内だけでなく海外へ向け、ICT(Information and Communication Technology)を活用してグローバル展開を図りたいですね。名経大を卒業した留学生が自国に戻った時、地域経済をグローバル化するパイプ役になってくれれば、夢や可能性がさらに広がると思います。



### 『学生の柔軟な発想を生かした商品開発を』

**佐分:**観光という視点から、本学の留学生や学生に期待することはありますか。

**山田:**昨年は犬山城の年間登閣者数が50万人を超え、国も愛知県も観光資源という面から犬山市の存在に重きを置いてくれています。犬山市としても、こうした観光資源や文化を留学生や海外へ向け情報発信していくことに力を入れていきたいですね。彼らの国や若い世代にしかわからない価値観があると思いますので、その価値観や多様性をどう捉えて工夫し、発信するか。そのアイデアを大学の研究や学生たちに求めたいと思っています。

**佐分:**犬山の産業政策に対してはどうお考えになりますか。

**山田:**まずは既存産業の足腰を強くするために、商品開発や新たな販路の拡大などを行政として支援したいと考えています。そのための情報を得て、人材を活用するという部分で大学とコラボし「学生の柔軟な発想」と「大学の知的資源」を生かした商品開発の展開を進めたいと考えています。いかに商品に付加価値をつけ、ヒットを生み出すか。具体的に産・学・官の連携事業とし、商品開発に結びつけていきたいですね。ICTも非常に有効なツールですので、ぜひ活用したいと考えています。

### 『学生時代をどう過ごすべきか』

**佐分:**最後に学生時代をどう過ごせば社会に出た時に役に立つのか、学生へのアドバイスをお願いします。

**山田:**私が大学生の時に丁度バブルが弾け、それまでの状況が一変してしまいました。今の学生もそうだと思いますが、明確な目的を持って生きていか

ないと、社会の中で自分の形が作りづらい。まずは「自分が何をしたいのか」を考え、絶えず今の自分を越えていくために「向上心を持つ」ことが大切だと思います。

**佐々木:**本学は「一人ひとりの学生を仕事につなぐ大学です」と謳っていますが、これは就職率がいい大学と言う意味だけではありません。今の日本には大学卒の3割が非正規雇用という深刻な問題がありますので、学生時代に「どういう仕事を通して、どう社会とつながっていくか」を早い時期から考えてほしいと願っています。大学の役割として、学生の最後の一人まで仕事につなぐところまで見守っていこうと思っています。

**山田:**目標を持って生きていくかどうかで人生の展開は変わってきます。学生の皆さんには自分の目標をしっかりと持って欲しいですね。進むべき方向ははっきりすれば、学生時代を有意義に過ごすことができると思います。

**佐分:**本日はありがとうございました。



#### Profile

やまだ たくろう  
1973年犬山市生まれ。1995年名古屋経済大学経済学部を卒業。その後、民間企業勤務、県会議員秘書などを経て、1999年犬山市議会議員に初当選。市議会副議長、監査委員、市議会議長を歴任。現在は第7代犬山市長として活躍中。名古屋経済大学同窓会長、尾張富士石上げ祭伝承保存会顧問。趣味は釣り、スノーボード。

## 体験型プロジェクト

### 1 授業時の見守り支援

私たちのプロジェクトは、小牧小学校3年生の学習を見守り支援する体験型授業であり、6名の留学生を含めて計14名の学生が履修しました。最初は小学生にどう教えたらいいのか、果たして自分の言うことを聞いてくれるかなど不安も多かったのですが、回数を重ねるにつれて距離が縮まり、支援室のあちこちでほほえましい指導風景が見られるようになりました。あっという間でしたが、本学の学生も小学生も大きく成長した半年間でした。



### 2 犬山の観光戦略を考える

本学が位置する犬山市は観光資源に恵まれた歴史ある町です。しかし、その豊富な観光資源が十分に生かされているようにはみえません。当プロジェクトでは、犬山市が誇る犬山城下町をはじめ、博物館明治村、リトルワールド、日本モンキーセンターなどを実際に散策・見学し吟味することから始めました。そして、受講者を複数のチームに編成し、若者にも魅力ある観光都市として犬山を売り出すための戦略を立案してもらい、パワーポイントを駆使して報告会を開催しました。



迫力の「木曾川うかい」を観覧

国宝「犬山城」をバックに記念撮影

### 3 名経大の水を知る

プロジェクトのテーマに関連する浄水場や下水処理場について「下調べ～見学～報告書作成」という一連のサイクルを通して学びました。これらを繰り返すうちに、見学時の質問内容は次第に洗練され、学生の成長を感じさせました。同時に、自分の感じたことを自分の言葉で表現することの大切さを学生に理解してもらえたのではないかと思います。教員の手厚いサポートを受けつつ、学生が自ら学ぶことの意義を体感したことはひとつの成果でした。



犬山浄水場を見学

五条川左岸浄化センターで

### 4 ラッピング体験

今年の受講生は男子が15名、女子1名と、クラスの雰囲気が昨年とはかなり違うものになりましたが、作品のレベルは担当の小山先生も舌を巻くほど、器用に仕上げる学生が何名もいました。今年最後の授業では、ラッピングについてテストも実施しましたが、全員が全問正解。アンケートには「やったことがなかったラッピングができてよかった」「毎回形が違うものを仕上げるのが楽しかった」などのコメントが寄せられました。皆それぞれに達成感を持ってくれたようです。



個性あふれるラッピング

「斜め包み」を習う

### 5 身近な食を知る

このプロジェクトでは、普段の生活の中の「食」に関わる仕組みについて学びました。授業では「お弁当」や「デザート」といった身近な素材を用いて、消費者へ販売するためにどんな工夫がなされているのかを学習し、それをもとに食品工場、卸売市場の見学も行いました。

今年度はベトナムからの留学生も参加し、日本人の視点だけでなく、さまざまな視点から「身近な食」について考えました。



市場を見学

## 学生の活躍

### 小牧市大学連携市民講座

#### 冬やさいと大豆でヘルシークリスマス!

平成26年度後期 大学連携市民講座(小牧市)「家庭教育・楽しく遊んで夢を育てる親子の絆」の一環として、12月21日(日)食育講座・親子クッキングを実施しました。親子クッキングでは、ニンジンごはん、おからコロッケ、サツマイモの豆乳スープ、小松菜の蒸しケーキを親子で楽しく作りました。スタッフとして管理栄養学科の2年生が参加し、子どもたちのすぐ近くで調理補助を行ったり、一緒に遊んだり大活躍しました。また、「野菜嫌いをなくそう」をテーマに学生が紙芝居を制作し、子どもたちに読み聞かせをしました。参加した皆様からは、「また参加したい」「子どもと一緒に調理ができて良かった」とのご意見をいただきました。学生にとっては、学内で学んだ知識を実践につなげる良い機会だと考えています。

今後も、近隣住民の方々に栄養や健康に関する意識を高めいただける楽しい講座を実施していく予定です。(人間生活科学部准教授 上延麻耶)



「ベジタマン」登場! 紙芝居をする宮下さん(左)

栄養と献立の解説



スタッフとして活躍した学生たち(左から高野さん、宮下さん、伊藤さん、中野さん)

#### VOICE 管理栄養士になるための経験としてこれからも積極的に参加したい

名経大で勉強に集中できる環境を得て、毎日充実した大学生活を送っています。連携講座に参加し、最初はなかなか心を開いてくれない子どもたちにとまどいましたが、笑顔で接するうちに子どもたちも次第に笑顔返してくれるようになりました。また、保護者の方から「さすが管理栄養学科の学生さんね」と、お褒めの言葉をいただき嬉しくなりました。調理指導や人とのコミュニケーションをとることは大切な仕事です。これからも積極的に参加して、将来の職業へつながる経験を重ねたいと思います。

人間生活科学部 管理栄養学科2年  
宮下寛基さん  
長野県鳳城高等学校出身



#### VOICE 相手のことを考えているうちに積極性が生まれてきた

どうしたら講座に参加していただいた皆さんに楽しんでいただけるか、どうしたら初対面の人同士が仲良くなって料理に興味を持ってもらえるのかをずっと考えているうちに、今までの自分の考え方に大きな変化を感じ、積極的になることができた気がしました。

緊張している子どもたちの心を解きほぐそうと、自然に笑顔で話しかけることができるようになって自分にも気がつきました。講座に参加する度に成長している自分を発見できたことは、大きな喜びにつながりました。

人間生活科学部 管理栄養学科2年  
中野公皓さん  
名古屋経済大学市邨高等学校(愛知県)出身



## いちむらっこまつり

### VOICE みんなのまとめ役として

今年度のいちむらっこまつりでは「みんなであつろう」をテーマに掲げ、わかやまけん作の「しろくまちゃんのほっとけーき」を題材に、子どもたちに楽しんでもらえるよう精一杯活動に取り組みました。

昨年度のいちむらっこまつりの反省点を生かし、今年は「みんなであつろう」ことを意識しました。しかし、保育科の学生全員と教員、附属市邨幼稚園全体が団結し、一つの目標に向かうことは容易ではありませんでした。意見が食い違った時もありましたが、相手の意見も尊重し合いながら一つの結果を探し、助け合い、励まし合うことの大切さを学ぶことができたと思います。

私個人の意見としては、みんなが初めから代表の号令で活動を進めるだけでは楽しさが味わえないと思います。紆余曲折ながらも真っ白なキャンバスにどれだけチームのカラーが出せるかが、活動の面白さだと



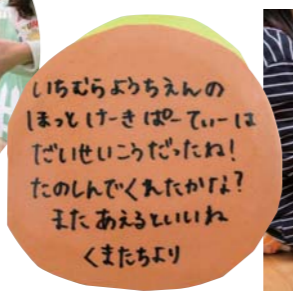
「いちむらのうじょう」小麦を収穫して小麦粉にタマゴと牛乳を混ぜたら・・・?



好きなくだものなあーに?



にわとりさんがタマゴを産んだよ



園児全員にプレゼントされた「ほっとけーき」のメッセージカード



「ほっとけーき」おいしくやけるかな?

思いますし、個人がそれぞれの経験やアイデアを出し合うことで、内容がより深く濃くなっていくと思います。いかに話し合いを重ね、個人の得意な所を生かしてチームに協力できるかが、今回のいちむらっこまつりを創っていく鍵だったように感じます。

今回、代表として一人ひとりを見て、一人ひとりの声を聴き、それに応えていました。私が代表としてここまで頑張れたのは、やはり仲間のおかげだと思っています。支えてくれた保育科1・2年生の仲間本当に感謝しています。そして、いちむらっこまつりに関わった方々全員に感謝の気持ちを伝えたいと思います。

書きたいことはまだまだありますが、すべて書いていたら卒業までかかりそうなので、ここで終わりにします。本当にありがとうございました。

「いちむらっこまつり」実行委員 代表  
短期大学部 保育科2年 田尻汐璃さん 名古屋市立北高等学校出身



笑顔いっぱい司会・進行をする田尻さん



ようせいさんたちの「ハンドベル演奏」



くまさんからのメッセージを夢中で読む園児

12月12日(金)、附属市邨幼稚園にて「いちむらっこまつり」を行いました。この活動は、2年生科目「保育・教職実践演習」の一環で行うもので、2年生が今までの学びの集大成として企画運営し、1年生も参加します。今年は、代表の田尻さんを中心に学生の主体性が発揮された形が進み、学生の成長とともにこの活動自体の発展性を感じることができました。田尻さんの文章からも学生の学びや活動に対する思いが十分伝わって来るのではないのでしょうか。(短期大学部 保育科准教授 関谷みのぶ)

### VOICE 子どもたちの笑顔を見て、苦勞が報われた

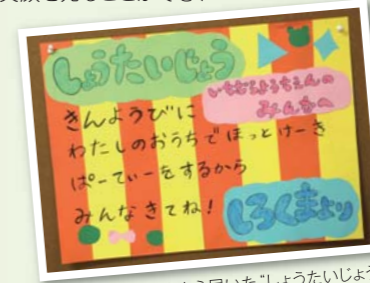
「いちむらっこまつり」が無事に終わり、ホッとしています。私はシアターのリーダーを務めました。最初は、何から手をつけていいのかかわからず、なかなか作業も進みませんでした。途中で2週間の学外実習もあり、限られた時間の中で台本や小物の作成、効果音などの音作り、劇の練習などを行いました。大学に遅くまで残り、家に持ち帰って作業をすることで、間に合わせることができました。

本番では子どもたちが楽しんで劇を観ている姿や笑顔を見ることができ、今までの苦勞が報われたと思いました。とても大変だった「いちむらっこまつり」でしたが、非常にクオリティーの高いキッチンなどの大道具を作ったシアターの仲間たちのおかげで、今回の「いちむらっこまつり」の劇は成功したのではないかと思います。

「いちむらっこまつり」実行委員 シアターリーダー  
短期大学部 保育科2年 村瀬裕太郎さん  
名古屋大谷高等学校(愛知県)出身



自慢のキッチンで「ほっとけーき」をつくります



しろくまちゃんから届いた「しょうたいじょう」



くだものいっぱい! できあがり

## 資格取得

### 日商簿記2級 高校からの目標に挑戦

商業科出身だったため、もともと簿記に興味を持っていました。高校時代に取得する機会を逃してしまった「日商簿記2級」は、自身のスキルアップのためにぜひ取っておきたい資格でした。何度も模擬問題を解いて、自分の苦手なところを見つけ、その部分はテキストの解説を繰り返し読み、理解

を深める努力を続けました。これから資格取得を目指す人は、時々仲間とそれぞれが得意分野を教え合うのも理解度を深める良い方法になると思います。

経営学部4年 廣中恵さん  
名古屋市立名古屋商業高等学校出身



### 宅地建物取引主任者 過去問を徹底的に解いて合格を手に

法律系資格の入門にと、軽い気持ちで始めた「宅建®」の勉強でしたが、覚える用語の多さや過去問の難しさに一時期勉強から離れていました。しかし、受験2ヶ月前になってこのまま終わってしまうのが悔しく「苦手な用語と向き合い、過去問を徹底的に解こう」と決心して一念発起! 猛勉強を

して合格を手にすることができました。一度挫折してしまったこともあり、質問に応じてくださった先生に恩返しのできた気がしています。

法学部4年 辻甫之さん  
名古屋経済大学市邨高等学校(愛知県)出身

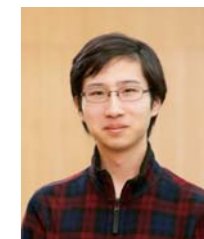


### 宅地建物取引主任者 勉強会に参加し、宅建資格を取得

支援室で勉強会が開かれることをゼミの先生から教えていただき「民法」を中心に勉強しました。少人数の勉強会だったので、机を寄せ合うことで距離も縮まり、互いに教え合いながら学ぶことで効率がアップ。また、自分に合った参考書と出会い、自主学習を効率的に行うことができました。

知識をしっかりと詰め込むことも大事ですが、試験においては「時間内に問題を解くこと」と「時間配分」が重要だと痛感しました。

法学部2年 宮本知仁さん  
美濃加茂高等学校(岐阜県)出身



※2015年4月1日より「宅建(宅地建物取引主任者)」は、宅地建物取引士に名称が変更されます。

## 幼稚園と大学連携

### 管理栄養学科と幼稚園のコラボ企画

#### 収穫したサツマイモをスイートポテトに

4月に植えたサツマイモがすくすく成長し11月5日(水)、サツマイモ掘りを附属市邨幼稚園の園児たちと楽しみました。当日はいつも畑をサポートしてくださっている「脱メタボおじさまの会」の方々と管理栄養学科の学生たちも一緒に「紅はるか」と「安納芋」をたくさん収穫しました。収穫したサツマイモは、後日、乳・卵アレルギー対応のスイートポテトに調理して昼食時に提供。園児たちはあっという間に完食し、大好評でした。その日は、食事も残さず食べる子どもが多かったようです。ちょっとした工夫が、「好き嫌い」をなくすきっかけとなり、良かったと思います。

(人間生活科学部准教授 早川麻理子)



大きなサツマイモがいっぱい



先生と学生さんに「ありがとう」



スイートポテトに変身!

#### ショートケーキで楽しいクリスマス

12月16日(火)、附属市邨幼稚園で恒例の「クリスマス会」を行いました。サンタクロースからのプレゼントをもらって、みんなで歌を歌って楽しく過ごしました。給食の時間には、大好きなクリスマスケーキが届けました。イチゴのショートケーキで、大学の管理栄養学科の先生と学生さんたちが心を込めて作ってくれたものです。アレルギーで卵と乳が食べられない園児のために、そっくり同じ色と形の代替えのケーキも作っていただきました。各クラスでは、みんなでおいしいケーキを食べながらの楽しい会になりました。

(附属市邨幼稚園長 鈴木文雄)



ハンドベルの演奏



#### 栄養たっぷり! 食事の楽しさを伝える

1月15日(木)、附属市邨幼稚園の年長組さんを対象に、食育活動として「給食作りの見学と試食会」を実施しました。給食は管理栄養学科2年生が作成し、子どもたちはその様子を興味深げに見学していました。今回の献立は、三色丼、カボチャサラダ、野菜たっぷりの味噌汁、みたらし団子です。子どもたちはおかわりをして「美味しい! 毎日ここで給食を食べたい!」と楽しそうに食べてくれました。この取り組みを通して、子どもたちが食に関心を持ち、みんなと一緒に食事をする楽しさを体感して欲しいと思っています。

(人間生活科学部准教授 上延麻耶)



給食作りを見学



みんなで美味しくいただきます

## 地域連携

### 歴史マップをもとに「楽田歴史探訪」を開催

私は本学のある犬山市楽田地域で、歴史文化財の保存や情報発信を行っている「楽田歴史文化を守る会」に参加しています。その活動の一つとして、インターネット上で閲覧や編集ができるデジタルマップを活用し、歴史マップを作成しています。その歴史マップをもとに11月9日(日)、「守る会」がガイドをし「楽田歴史探訪」と称して、地域の方々と一緒に史跡をめぐるイベントを行いました。また、小学生向けの歴史マップも作成し小学生に興味をもってもらえるよう、アイコンや文章の内容を工夫しています。

経済学部特別研究室 地域社会研究チーム  
経済学部2年 鷲田智貴さん  
晚高等学校(三重県)出身



参加者の安全を確保しながら誘導する



「楽田の歴史クイズ」を実施

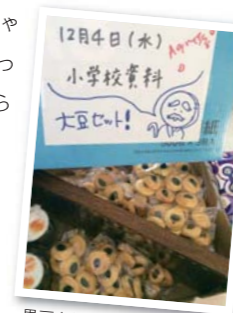
### 犬山市内の小学校で「黒豆教室」を開催

12月4日(木)、犬山市内の小学校2校において「黒豆教室」を開催しました。1校は大学近くの楽田小学校。3年生の児童が熱心に話を聞き、活発に質問してくれました。

2校目の木曾川沿いに立つ里山に囲まれた栗栖小学校は、全校生徒が18名の小規模校。この日は1年生から4年生13名が図書室に集合し、次々に映し出されるスライドを食い入るように見つめ、初めて見聞きする知識に目を輝かせていました。「枝豆は、大豆の赤ちゃんなの?」「大豆にはたくさんの栄養素が詰まっているんだね」と、実物の黒豆にもふれながらさまざまな感想を聞かせてくれました。

今後、児童を本学へ招き「黒豆教室第2弾」を開催する計画もあり、大学見学や黒豆を使った調理実習など企画を準備中です。

(人間生活科学部准教授 李温九)



黒豆を使った手づくりクッキー



栗栖小学校の児童と記念撮影



「黒豆」について活発に質問をする楽田小学校の児童たち

### 子どもたちと交流できる「やどかり塾」

本学のある犬山市楽田地域では、楽田コミュニティの方々が発動されています。その活動のひとつに「やどかり塾」があります。これは毎年12月の第1土・日曜日、地域の子供たちにレクリエーションや学びの場を宿泊付きで提供しているもので、本学の学生もボランティアとして参加し、子どもたちとの貴重な交流の場となっています。今年度は光る泥団子を作ったり、座禅を組んだり、大縣神社で郷土についての話を伺った後、本宮山にも登りました。本学には教育保育学科があるので、大学生活で子どもたちに接する良い機会になると思います。



本宮山をみんなで登山



小学生と泥団子づくり

## 「犬山城戦国武将物語」で甲冑武者行列

10月26日(日)、地域のイベントである秋の犬山お城まつり「第10回犬山城戦国武将物語」に外国人留学生、日本人学生、教職員約30名が参加しました。地域の方々に協力いただき、戦国武将さながらに甲冑を身にまとい、大学の旗を掲げながら凛々しい姿で行列に加わりました。

さらに本学学生が務める犬山観光学生大使が姫役として行列に華をそえました。



城下町を甲冑姿で闊歩



姫に扮して行列に参加



凛々しい甲冑姿

## 犬山市立東小学校でのボランティア活動『ワールドパビリオン』

10月31日(金)、犬山国際交流協会から紹介を受け、犬山市立東小学校の「総合的な学習の時間」において、中国とベトナムから来た外国人留学生4名がボランティア活動を行いました。留学生たちは小学生の発表を聞いて感想を述べたり、出身国について説明をしたり、小学生のさまざまな質問に答えました。

参加した留学生全員から、「機会があればまたぜひ挑戦したい」という感想を聞くことができました。このボランティア活動の様子は11月10日(月)にCCNet12(中部ケーブルネットワーク)で放送されました。



小学生たちの質問に答える留学生たち

## 愛知県主催の『あいち合戦ワールド in 大高緑地』

11月30日(日)、愛知県観光協会の協力を得て、大高緑地(名古屋市緑区)で行われた「あいち合戦ワールド」に外国人留学生4名が参加しました。当日は、あいち手作り甲冑サポート塾の方々の支援を受け、「甲冑着用体験」や「地産品や観光PRブース」の見学を行いました。また、全国各地から集った多くの戦国武将隊と記念撮影を行い、交流を深めました。

参加した留学生からは、「参加して良かった」「満足できました」という声が寄せられました。今後も学内外で行われる日本文化にふれる交流イベントに積極的に参加していきます。



甲冑姿で「ハイポーズ」



人で埋め尽くされた会場

## ISS(留学生支援室)『クリスマスパーティー』

12月19日(金)、ISSの第5弾イベントとして「クリスマスパーティー」を開催しました。当日は、外国人留学生、日本人学生、教職員合わせて25名が参加しました。留学生や日本人学生が一つひとつ飾りつけたデコレーションクッキーを暖かい飲み物と一緒にいただきながら、交流をしました。また、メインイベントのプレゼント交換では、

いっそう盛り上がりました。  
イベントに参加した留学生や日本人学生は、「日本のクリスマスの雰囲気が味わえて楽しかった」「外国語をもっと話せるようになりたい」「外国をもっと知りたいと思うようになった」と笑顔で感想を述べていました。



「プレゼント交換」抽選会



ツリーを囲んで記念撮影

## 犬山市観光協会、名鉄グループ、名古屋経済大学の共同企画『犬山観光地見学』

12月6日(土)、犬山市観光協会と名鉄グループ、名古屋経済大学が共同で企画した「犬山観光地見学」を開催しました。本学からは外国人留学生、教職員あわせて23名が参加しました。当日は、各団体の方々の協力をいただき、国宝犬山城、博物館明治村、リトルワールド、名鉄犬山ホテルなど各施設の見学を行いました。

参加した留学生たちは「景色が素晴らしい」と感動した様子で、各観光地の魅力を取材して紹介ビデオにまとめる活動を行いました。



名鉄犬山ホテルの庭園で犬山城をバックに記念撮影



リトルワールドで取材

庭園「有楽苑」を散策

明治村「入鹿池」をバックに



明治村正面玄関でビデオ撮影の打ち合わせ

## 就職内定者

### やりがいのある企業と出会う

「やりがいがある企業に就職したい」と思っていた私は、趣味の旅行に関係した企業にターゲットを絞り、就職活動を展開。それがジェイアール東海ツアーズと出会うきっかけとなり、内定へとつながりました。

また、ゼミでは学生同士で情報交換を行い、履歴書の書き方について討論するなど、さまざまな刺激を受けました。頑張って就職活動に取り組めたのも、こうした経験があったからだと思います。将来に生かせる能力は、一朝一夕では身につけられません。充実した毎日の生活が、明日につながると思います。



●株式会社ジェイアール東海ツアーズ  
法学部4年 岩本智裕さん  
名古屋市立緑高等学校出身

### 後悔しないよう、全力で取り組み

教員採用試験前は「絶対に教師になる!」と強く思い続け、勉強に取り組みました。通学時間が長かったので「この駅までに教育法規を見直す」など、小さな目標を決めて時間を有効活用しました。机に向かえない時や参考書を開くのが苦痛に感じる日もありましたが、そんな時は実習先やボランティア先で出会った子どもたちの姿を思い出し、後悔しないよう全力で取り組みました。

春から教師として働くことになりましたが、子どもたちや先生方との新たな出会いを楽しみに、一生懸命頑張りたいと思います。



●大阪府教育委員会(小学校教諭)  
人間生活科学部 教育保育学科4年 倉田有佳さん  
高田高等学校(三重県)出身

### チャンスを生かして積極的に

4年生の4月からキャリアセンターに通い始めました。まずは履歴書の書き方から始め、次に自己PR、大学生活で得たものについて書きましたが、私は文章を書くのが苦手なので、キャリアセンターで添削してもらいながら自分のものにしていきました。また、児童養護施設の職員になりたかったのですが求人が少ないため、キャリアセンターの森井さんに施設を紹介していただき、説明会や見学に行っていました。その後、大学に求人 came と知らせがあり、受験。念願であった施設への内定が決まりました。



●社会福祉法人蒲生会(児童養護施設指導員)  
人間生活科学部 教育保育学科4年 林弘将さん  
三重県立四日市工業高等学校出身

### 自信を持って、自分の言葉で伝える

集団面接では、上手に話す人がいるとつい焦ってしまうと思いますが、上手に言えなくても自分の想いを自分の言葉で一生懸命相手に伝えることが大切だと思います。実際、私も難しい言葉を使って上手に話したというよりも、素直に思っていることを話した…と言った方が正しいかもしれません。ただ、気をつけたのは、言葉づかいや声の大きさです。相手が聞き取りやすいように話すことが大切だと思います。

面接は緊張してしまうものですが、弱気になつたりせず、自分に自信を持って取り組んでください。



●株式会社三陽商会  
人間生活科学部 教育保育学科4年 太田有紀さん  
名古屋経済大学高蔵高等学校(愛知県)出身

### 人間力を高めることができた就職活動

初めは不安もありましたが、就職活動を通じてさまざまな人と出会い、現代社会において重要な「コミュニケーション能力」を身につけることができました。当時は内定を得ようと一生懸命で気づけなかったのですが、「高い行動力」が身についたと思います。その後、プロジェクトファイブの人事部長からお声をかけていただいたことがきっかけとなり、内定をいただくことができました。「自分を認めてもらえた」という喜びがとても大きかったことを覚えています。今は「会社のために誰よりも貢献したい」という気持ちでいっぱいです。



●株式会社プロジェクトファイブ  
経済学部4年 川中将司さん  
名古屋経済大学市邨高等学校(愛知県)出身

### 役にたった、公務員試験対策講座と勉強会

就職試験の2次試験が大学祭の1週間後だったため、面接練習を自治会企画の準備やゼミのシアター練習とぶつからないようにしていただくなど、先生やゼミのメンバー、友だちにぜひぶん助けてもらいました。1年の6月からは公務員試験対策講座が開講され、私は教育保育学科の学生と基本問題集を復習する勉強会を開き、夜遅くまで情報交換をしていました。いつも周りの人に支えてもらっていたことに感謝しています。内定をいただいた時は、先生方も一緒になって喜んでくださり、本当に嬉しかったですね。



●長野県南木首町役場(保育職)  
短期大学部 保育科2年 小林明子さん  
長野県蘇南高等学校出身

### 違う視点で物事を考えることで、目の前が開けた

多くの合同・個別企業説明会に参加しましたがうまくいかず、一度立ち止まり視点を変えてみたことで「誰かに感謝されることが働く意欲につながる」と気づき、次へ進むことができました。中でも小売業界の説明会に参加した時、社員の方の熱意や心構えに圧倒され目が覚める思いがしました。また、キャリアセンターでは履歴書の書き方から模擬面接まで指導していただき、次第に面接の流れが理解できるようになりました。面接官に「自己分析ができていて、軸がぶれない」と評価していただき、内定につなげることができました。

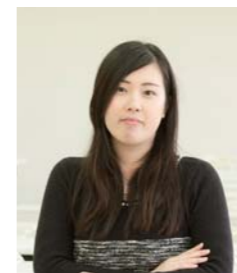


●ゲンキー株式会社  
経済学部4年 数納彰人さん  
岐阜県立恵那農業高等学校出身

### 自分に合う保育所をじっくり探す

名経に入学した決め手は、保育科の就職率が抜群という情報を聞いていたからです。短大は四大よりも忙しくすぐに就職活動が始まっていますが、それ以上に同じ目標を持つ仲間がいるからこそ絆も深まります。保育科の2年間は行事も多く、毎日がとても充実しています。

就職活動はさまざまな保育所を見学し、自分に合っているか、じっくり探すことが大事だと思います。私は結婚しても続けて働きたいと希望していたので、先輩からの情報や保育所の雰囲気などのリサーチを欠かしませんでした。



●私立桃の花保育園  
短期大学部 保育科2年 永井杏奈さん  
名古屋経済大学市邨高等学校(愛知県)出身

### 応援してくれる人がまわりにいることの幸せ

就職活動は「経験することの大切さ」「中小企業の家庭的な温かさ」を知ることができた貴重な体験でした。また、インターンシップやアルバイトを通じ、応援してくれる仲間がいることの心強さを直に感じる事ができました。大学のほかに「なごチャレ.26※」との出会いによって「中小企業の面白さを多くの学生に伝えよう!」と今、仲間と頑張っ活動しています。就職後は、元気の出る番組を作ってみるを幸せにしたいですね。いろいろな経験をして、残り少ない大学生活を楽しもうと思います。



●株式会社ワンテイク  
人間生活科学部 教育保育学科4年 井川雄介さん  
静岡聖光学院高等学校(静岡県)出身

※「なごチャレ.26」は、名古屋市大学生キャリア教育事業から生まれた学生団体です。

### キャリアセンターで情報をいち早くキャッチ

私は母園への就職を希望していたので、とにかく求人情報をいち早くキャッチすることを心がけました。あとは、自分の目で実際の園の雰囲気を感じる事が大切だと思います。また、キャリアセンターでは履歴書や提出書類の書き方から添削、就職試験のピアノ課題曲の相談や内定後の園への対応の仕方まで、たくさんのアドバイスをいただきました。そして何より心強かったのは、同じ夢を持つ友人と過ごせたことです。みんなと一緒にいることで、毎日が楽しく自然と笑顔になることができました。



●私立大治幼稚園  
短期大学部 保育科2年 安藤寧々さん  
名古屋市立西陵高等学校出身

### 人と接することの難しさと、面白さを知る

就職活動では、グループワークやグループディスカッションなど、初対面者との共同作業が求められます。討論するうちに意見がまとまり、自分の意見が認められた時は嬉しく感じました。就職活動中「生まれ育った地元で貢献できる仕事したい」と思うようになり、キャリアセンターで履歴書の添削や企業情報、特に試験の内容を教えていただき、努力の甲斐あって内定をいただきました。多くの人と関わり、その人を理解し、自分の価値観を大きく変化させるような出会いを大切にして頑張ろうと思います。



●東濃信用金庫  
経営学部4年 林聖高さん  
岐阜県立多治見工業高等学校出身

### 実習先が就職先に・・・園の雰囲気も大好き

名経を卒業した知人から話を聞いて楽しそうな雰囲気が伝わってきたこと、自宅から近いことが決め手となり、入学を決めました。私の就職活動は教育実習でお世話になった園から、「試験を受けてみませんか?」と、声をかけていただいたのがきっかけで始まりました。実習中の先生方の印象がとても良く、ここで働けたらと思っていたので、内定をいただきとても嬉しく思いました。短大は時間が短いからこそ、さまざまな行事を通して充実した学生生活を送ることができます。保育科で夢を実現させましょう。



●私立かたびら幼稚園  
短期大学部 保育科2年 藤田彩花さん  
岐阜県立東濃実業高等学校出身

# 講演会

## 英語教育センター 学内講演会

10月28日(火)、英語教育センター主催学内講演会「学習ストラテジーを活かした学び～言語学習の設計に向けて～」が開催されました。講師の伴紀子氏(南山大学名誉教授)から、外国語学習における「方略」としての学習ストラテジーについて、直接学生に質問し、語りかける進め方でお話いただきました。言語学習には、小手先のコツではなく、記憶・認知・情意・補償といった方略が必要であることがわかりました。学生および地域の方々にとって有意義な時間になったと思います。(経営学部教授 近藤利恵)



## なごや起業家養成プロジェクト

11月19日(水)から12月4日(木)の毎水曜日と木曜日の全6回、名駅サテライトキャンパスを会場に、起業を志す本学の学生のために税理士、社会保険労務士、金融などさまざまな分野のスペシャリストをお迎えして「なごや起業家養成プロジェクト」集中セミナーが開講されました。

### VOICE 起業家養成セミナーに参加して

私が経営学部を選んだ理由は、「将来起業したい」という思いが少なからずあったからです。そこで今回、「起業家養成セミナー」への参加を決めました。毎回すべてのテーマが異なり、各専門から直接お話を聞けるので、新鮮な気持ちで参加できました。

起業について学びましたが、働く時の注意点にも繋がると感じました。とても勉強になり、参加して良かったです。

経営学部3年 福井綾華さん  
岐阜県立岐阜北高等学校出身



## 犬山オープンカレッジ

名古屋経済大学学術センター主催、犬山市教育委員会・犬山商工会議所後援の「犬山オープンカレッジ」を、犬山国際観光センターフロイデと本学会場にして今年度も開催しました。延べ150名の方にお越しいただきました。第3回高田先生の「総理大臣の選び方」はちょうど衆議院解散のすぐあとだったので、会場の雰囲気が大いに盛り上がりました。



iPadを駆使して講演する高田教授

第1回 9月27日(土) 犬山国際観光センター フロイデ  
「お金のセンスのある人、ない人 ～会計的思考法とその実践～」  
講師：経営学部准教授 佐藤豊和

第2回 10月11日(土) 名古屋経済大学  
「すし屋で恥をかかないために」  
講師：短期大学部 キャリアデザイン学科教授 日比野光俊

第3回 11月22日(土) 犬山国際観光センター フロイデ  
「総理大臣の選び方」  
講師：短期大学部副学長 高田豊實

第4回 12月20日(土) 犬山国際観光センター フロイデ  
「うつ病とマインドフルネス認知療法」  
講師：短期大学部 保育科教授 家接哲次

## 第24回企業法制研究所 公開講演会

12月4日(木)、企業法制研究所主催の第24回公開講演会が学内に開催されました。「労働契約における情報の収集・管理に関する法的諸問題」を演題に、山田洋嗣弁護士に企業側の観点から労働契約についてわかり

やすく紹介していただきました。労働契約をめぐる判例についての解説に対しては、受講した学生、とりわけ就職活動を控えた3年生が熱心に聞き入っていました。(法学部准教授 美濃羽正康)

# 教員の活躍

## 情報システム学会で中西教授が「ベストペーパー賞」を受賞

11月29日(土)・30日(日)、静岡産業大学において「情報システム学会第10回全国大会・研究発表大会」が開催され、「新しい風をおこす情報システム学」をテーマに、一般発表38編(ショート:22編、ロング:16編)、研究会発表6編の計44編が発表されました。終了後の情報交換会において本学経営学部 中西昌武教授の論文が「ベストペーパー賞」に選ばれ、記念の盾が贈られました。

### 「ベストペーパー賞」受賞のことば

第10回情報システム学会全国大会でベストペーパー賞を授与された「バス歩行行列を媒介とした帳票検討プロセス」という論文は、長年研究してきた帳票(伝票、集計表、入力画面)理論を新たな自動生成へと応用する方法を提案したものです。この技術を無償公開すれば、これまで高額だったシステム開発の一部を安くする道が開けます。そのような応用の豊かさが評価されたことが今回の受賞理由です。

これを励みとして、さらにこの研究を発展させたいと願っています。  
(経営学部教授 中西昌武)



「ベストペーパー賞」受賞の喜びを語る中西教授

## Relay Essay 024 リレーエッセイ

### 愛知県の余裕?

経済学部准教授 峯岸信哉

私はこの4月に関東から越してきたのであるが、1つ驚いたことがある。それはエスカレーターで急ぐ人が歩く時の位置である。

通常、関東では右側を歩く。何度か出張で行った関西では、それが左側であることは知っていた。さて、2つの地域の間位置する愛知はどちらなのだろうかと、引越しの際は秘かに楽しみにしていた。

数か月が過ぎ、なるほど大まかに言って愛知県は関東と同じ右側を歩くのだなど見極めた頃、なんとエスカレーターで「歩かないで」の張り紙を見つけた。高齢者や子供のケガ防止が理由であることはニュースを見て知っていたし、それが理由であることはすぐに理解できた。それでも(右を歩いても左を歩くでもなく)「歩いてはダメ」とまで言い切る愛知県(名古屋だけか?)の潔さ・思い切りのよさに非常に大きな衝撃を受けた。

その一方で、愛知県の風土より「そんなに急いでどうする?あわてず行けよ」と問われているようにも感じられた。かつて私が住んでいたイギリスでは、皆が「一生懸命に」休みをとっていた。仕事を頑張ることはあくまでも自分自身や家族との時間を楽しむためであり、負担を感じてまで忙しすぎたはいけないことをほとんどすべての人が理解し、実行していたのである。新天地である愛知県でふと見つけた張り紙から、私はそんなことを思い出し、そして同じ「余裕」を感じた。元から住んでいる人はこのようなことは思っていないのかもしれない。しかしながら、愛知県在住1年目の

今だからこそ抱くこの驚きや思いつきを、仕事に対する新鮮な気持ちと共に覚えておきたいものだ、家族の待つ電車の中でぼんやり考えた。



ビートルズミュージアム前にて

#### Profile

みねがし しんや  
1996年 専修大学 商学部商業学科卒。2004年 成城大学大学院 経済学研究科博士課程後期満期取得退学。2010年 ロンドン・メトロポリタン大学 経済学部博士課程修了。同年、(独)中小企業基盤整備機構 リサーチャーを経て、2014年より名古屋経済大学 経済学部現代経済学科にて金融システム論、金融機関論などを担当。研究テーマは、「中小企業金融」「個人金融」。